

西田分校
〈大正6年～昭和46年〉



湯里小学校初代校舎
〈明治26年〜〉



二代目校舎
〈明治43年〜〉



三代目(先代)校舎
〈昭和41年〜〉



どが古か 木田市です!!

大田市ふるさと情報誌

VOL.10

2008.10


Contents

- 2-3P 神楽の申し子、ふるさとを問う
神楽面作家 小林泰三さん
- 4-5P 三瓶山の湧水 ミネラルウォーターに
「さひめの泉」
自転車で巡る石見銀山遺跡(大森町)
- 6-7P 石州瓦の登り窯『島田窯』
- 8P おおだ市流田舎ツーリズム
- 9P シリーズ新石見銀山⑩
ちょんぼし語録⑤
- 10-11P おおだ情報BOX
- 12P ふるさとは今/学校紹介

一、潮路果てなき日本海
岸うつ波のとろろきは
雄々しく進むぼく達の
明日と夢見る歌声だ

二、樹々の緑につままれて
朝日に映える学舎は
明るく育つわたし等の
心に生きる故郷だ

三、みんなを仲よく手を取って
仰ごう友よつらこは
大空高くは、えんで
学ぶわれらと励ますよ

 湯里小校歌
木島俊太郎 作詞
森山 俊雄 作曲

神楽の申し子、ふるさとを問う

小林 泰三 さん（温泉津町小浜）

神楽面制作・販売『小林工房』代表

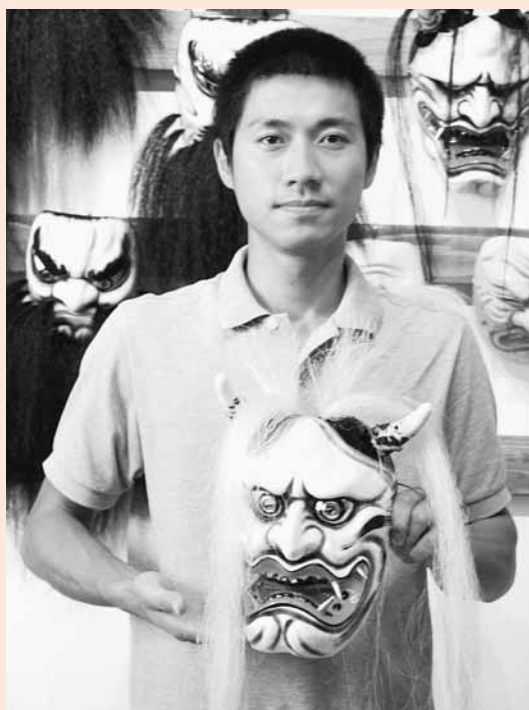
「タイゾウが帰ってくる！」
今春、温泉津町内を喜びの声駆けめぐりました。懐かしさからではありません。「これで一緒におもしろいことができるで！」、そんな仲間からの喜びの声でした。

小林泰三さん、28歳。温泉津舞子連中を立ち上げたメンバーで、すでに神楽歴11年。地域の伝統芸能復活の立役者は今、石見神楽のさらなる浸透を志し、ふたたびふるさとの地を踏みました。

今回は小林さんに、石見神楽のこと・この大田地域のこと・そして何より、帰郷を決意されたご自身のことについて伺いました。

いざ、京都へ

小林さんは温泉津中学校



江津高校を卒業後、京都造形芸術大学に進学し、芸術学コースを専攻しました。卒業後は同大学にそのまま就職し、自ら立ち上げた学外授業『温泉津プロジェクト』の指導員を5年にわたり勤めました。

『温泉津プロジェクト』

『温泉津プロジェクト』では、石見神楽をはじめと

した温泉津の伝統文化への理解を深めること・交流による地域の活性化を目的に、受講生が温泉津舞子連中と共同で、夏祭りや海神楽、新春神楽などの公演を行っています。

つながり

小林さんは、指導員として学生たちに演技や演出を指導するだけでなく、地域



今年の「海神楽」の一幕

における芸術文化の大切さを伝えたいといえます。「僕たちにとって神楽って、子どもの頃から身の回りである空気や水のようなものですよね。演技や演出は大学の教室でも学べますが、地元の皆さんの人情や自然との一体感、そういうものは現場で自ら発掘するもの。学生たちには自分で気付いて吸収してほしい、と思いつながら指導しています」

お盆も正月も返上して温泉津に来る学生たち。そして、彼らを待ちわびる地域の皆さん。「つながり」という名の教科書は、年々ぶ厚くなっていきます。

夢を現実に

今年5月、小林さんは大卒を退職し、故郷・温泉津にUターンしました。小学生の頃から思い描いていた、「神楽面師になる」という夢をかたちにするためです。そもそものきっかけは、幼少時に訪れた浜田市の工房で今のお師匠さんに出会ったことでした。休みのたびに通いつめ、その魅力にとりつかれていったそうです。帰郷を決断できたのは、お師匠さんの「30歳までには、腹を決めろよ」との言葉に背中を押されたからでした。30歳にして神楽面師の道を志した経験からの一言は、小林さんの心に深く染み入りました。

こうして帰郷後すぐ、『小林工房』が産声をあげました。実家が所有する蔵を改修した工房内は、古民家の趣を残しつつも洗練された印象をたたえています。

探求の日々

水を得た魚のごとく、制作に没頭する小林さん。そ

んな中、現在取り組んでいるのが、町内の地下資源や伝統工芸とのコラボレーションです。

写真左の飾り面は、なんと土でできています。ただの土ではありません、温泉津産の陶土を成型・素焼し、絵付けを施した「素焼面」です。

「ここにしかないものを作りたい、という欲求の表れです。でも、石見神楽はただそれだけで成り立っているのではなく、地域や自然と共存共生している文化。この地域にある歴史、資源、技を取り入れることで、石見神楽に触れたことのない方にも魅力が伝われば、和紙で作るより安く制作・提供できるのもメリットです」

若き求道者の旅は、果てなく続きます。



温泉津の土を使用した飾り面は、舞い面にはない愛嬌ある表情が魅力



神楽面制作・販売 小林工房

住所 大田市温泉津町小浜
TEL 0855-65-2565

(小林工房の神楽面は、町内のショップ&カフェ『KAGURA』(TEL 0855-65-1006)で取り扱っています。)



「舞い手の心をイメージしながら」筆を運ぶ小林さん。どこまでも優しいまなざしが、面に注がれる

三瓶山の湧水 ミネラルウォーターに！

商品名は「さひめの泉」

「火山からの恵み」

三瓶山は頻りに爆発的噴火を行なってきた火山で、約10万年前に活動を開始したのだそうです。

最近では、約3、600年前、それ以降でも少なくとも3回は火山活動があったと推定されています。

こうした火山活動は、三瓶山に多くの魅力をもたらしました。

特色ある温泉もその恵みの一つです。

全国でも有数の湧出量を誇る「さんべ温泉」やラドン含有量が世界一といわれている「池田ラジウム鉱泉」、食塩性炭酸泉の秘湯「小屋原温泉」などがそうです。

そして、温泉と同様に火山活動の恵みを受けたのが湧水です。

「三瓶山の湧水群」

三瓶山は、亀裂が多い溶岩と火山灰で形成されていて、雪解け水や雨水が地下

深くに浸透し、標高500メートルほどの山麓一帯には多くの湧水が点在しています。

これらの湧水は、地域の人々の生活水として古くから親しまれ、「三瓶山の湧水群」として島根の名水百選に選ばれています。

三瓶で生産されるワサビや米などの農作物は、きれいな湧水と寒暖の差によって良質に育まれます。



北の原近くの「石清水」は、やわらかい口当たりが人気で市街地からわざわざ汲みに来る人も

「ミネラルウォーター」

そんな良質で豊富な水量の三瓶山の湧水が、ミネラルウォーターとして販売されることになりました。

商品化に取り組んだのは松江市に本社がある山陰クボタ水道用材株式会社。

同社が経営する三瓶観光ホテル（三瓶町志学Ⅱ現在休業中）で使用していた湧水がミネラルウォーターとして十分な品質であったことが事業のきっかけです。

志学地区内に製造工場を設け、試掘により地下60メートル付近から湧き出たのは、ホテル水源よりも成分が優れた豊富な水でした。

商品名は「さひめの泉」

三瓶山が、出雲国風土記が伝える国引き神話に佐比売山（さひめやま）の名で登場していたことと、こんなと湧き出る泉というイメージから名付けられました。

500mlと2ℓのペットボトル販売と3ガロンボトル（約12ℓ）の宅配販売を10月から開始。宅配エリアは島根県内と鳥取県の一部です。詳しくは、下記までお問い合わせください。ペットボトルは通信販売にて購入できます。

問い合わせ 山陰クボタ水道用材(株)環境事業部
電話 0120-837-014

■「さひめの泉」の成分表 (1000ml中)			
カルシウム	0.31mg	ナトリウム	0.54mg
マグネシウム	0.27mg	カリウム	0.14mg
Ph値7.0(弱アルカリ性)		硬度19(極めて軟水)	



〔地域活性化に向けて〕

ミネラルウォーター製造の事業化は、地域に雇用の場を創出しました。

計画では、今後3年間で7名程度の雇用が見込まれています。

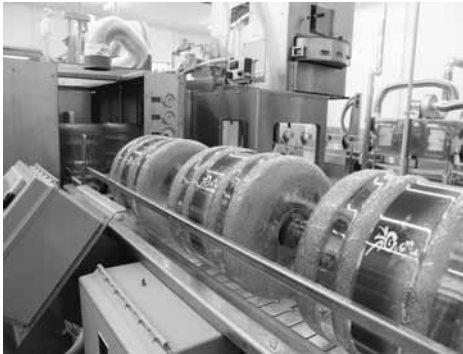
少子・高齢化、過疎化が進み、集落機能の維持すら危ぶまれる昨今にあつて、このような地域資源の活用が地域活性化のカギと言われています。

三瓶山には、前述の温泉や湧水、農作物のほかにも、小豆原埋没林や登山、三瓶自然館、浮布池、姫逃池など数えればきりがありません。多くの魅力があります。

これらの魅力を活かし營んでいくことが、ひいては地域を守ることにつながるのではないのでしょうか。

良質の水は、食品をはじめ、化粧水やサイダーなど、原材料として色々な可能性を秘めています。

この事業化をきっかけに、



工場内の様子



三瓶山の水と資源が連携し、三瓶ならではの新たな商品が現れ、さらなる地域の活性化に繋がっていくことが期待されています。

自転車で巡る 石見銀山遺跡（大森町）



山の木々も色づき始め、当地も秋の行楽シーズンの真っ直中といったところです。石見銀山遺跡（大田市大森町）地内は、この10月から排ガス・騒音などの問題により、龍源寺間歩行き路線バス（銀山公園～清水寺休憩所）が廃止となり、観光地内の移動は専ら徒歩での移動となります。

そこで活躍するのが自転車です。お客様の中には、ご自分の自転車を持参して観光されたり、石見銀山地内にあるレンタサイクルを利用される方もおられます。

「大森代官所」付近（下表①）と「五百羅漢」付近（下表②）の2カ所で（有料）自転車の貸出を行っており、あわせて50台の貸自転車があります。

秋は、行楽の秋、スポーツの秋、などと言われ、外で活動するにはとても良い季節です。普段運動をされていない方や長く歩くのはちょっと……と思われる方でも自転車なら安心。この秋、ゆっくり石見銀山遺跡を巡られてはいかがでしょうか。

なお、たくさんの観光客の方が歩いておられますので、自転車にお乗りの際は、くれぐれも安全運転をお願いします。

貸出場所 (電話番号)		営業時間	定休日	種類	台数	時間	料金
貸 自 転 車 ・ 河 村	①河村石油店 (0854-89-0633)	9:00頃～17:00頃	年中無休	普通自転車(古)	10台	4時間	300円
				普通自転車(新)	15台	4時間	500円
				電動自転車	13台	2時間	500円
	②だんご屋・お銀 (090-7503-4587)	9:00～17:00	火曜日 不定休有	普通自転車	13台	4時間	300円





石州瓦の登り窯 『島田窯』

経済産業省が、幕末から戦前にかけて日本の産業近代化に貢献した「近代化産業遺産」を昨年11月に認定しました。その中で、水上町福原の「島田窯」が山陰地方で唯一、窯業分類「大田市の窯業（石州瓦製造） 関連遺産」として認定されました。

「島田窯」の歴史

大田市には、80余りの瓦の窯の跡が確認されています。

「島田窯」は現存する13基の窯を階段状に積み重ねた登り窯跡で、平成3年頃まで操業していました。現存する瓦専用の登り窯としては全国的にも希少価値が高く、また、操業当時に使用されていた瓦プレス機など生産工程にかかわる道具や機械もほぼ完全な状態で残っています。

温泉津町出身の若山美作が大正初期に創業し、名を「若山瓦工場」といい、通称「若山赤がわら」と呼ばれていました。その後2代目若山美作（世襲）、3代目若山延重、4代目島田房雄と受け継がれます。昭和35年頃までは、1年に5回の

火入れが行われ、最盛期には3人の住み込みを含む10人の職人が従事していました。しかし、昭和50年代中頃以降、機械化による大量生産が主流となる中で、規格サイズに合わないことや登り窯に耐えられる粘土が減少したことに伴い、その生産は減少の一途を辿りました。

当時の原材料は、水上町福原の良質な粘土、釉薬には来待石を砕いて粉にした来待粉を使用し、また、火力が強いため割り木には松を用いていました。一つの窯には約600〜1,000枚の瓦が入り、全ての窯を使用すると約1万枚の生産が可能でしたが、そのなかでも商品として出荷できたのは約半数で、瓦の製造には熟練した職人の技が必要でした。



砕土機



陳列棚



登り窯



世界遺産 石見銀山遺跡と共に!

石見銀山登り窯 再生プロジェクト

登り窯 窯入れ研修 (平成19年3月)



「島田窯」で生産された瓦は、大森町の重要伝統的建造物群保存地区の修復工事に使用されるなど、その品質は高い評価を受けました。

石見銀山登り窯 再生プロジェクト

現在、貴重な産業遺産である「島田窯」も傷みが進み、存続が危ぶまれています。特に屋根の傷みは顕著で倒壊の恐れがあります。さらに、雨や風により登り窯自体にまで影響が出ています。

窯の復元には熟練した技術が必要ですが、修復できる職人の高齢化が進み、十分な人材を確保することが困難なところまで来ています。幸いなことに窯の内部は傷みがなく、今なら完全な状態での保存が可能です。こうした状況を憂い、大田市内の建築業者などの仲間が集まり、「島田窯」の積極的な存続を目指して、平成18年7月、「石見銀山登り窯保存会」を発足しました。

☆島田窯の特徴☆

- ①登り窯のあるこの地域は、石見銀山の麓にあって、幕末から近代、近年にかけて家並みを彩ってきた石州赤瓦の一大生産拠点であった。
- ②島田窯は大正期に造られ、平成の初めまで70数年使われてきて、ほぼ完全な形で残されており、瓦専用窯としては、全国的にも希少価値が高い。
- ③島田窯は、13段の登り窯をはじめ、瓦の製造工程にかかわる各施設がよく残されている。

- 保存会では、私たちの生活基盤を長い間支えてきた貴重な産業施設を後世に残し、語り継ぐ遺産として、
- ①近代化産業遺産に認定された島田窯の維持保存を図ると共に、「石見銀山登り窯伝承館」として整備し、展示公開する
- ②野外学習施設として活用する
- ③石見銀山の構成要素と位置づけ、観光資源として活用する

の再生に向けた様々な研修を行い、登り窯の現状を多くの方に理解していただく活動を展開してきました。

活動を通して、登り窯の屋根の一部は修復できましたが、屋根の崩壊、窯や各施設の老朽化が一層進む恐れがあります。現在、施設の半永久的な保存が出来る状態まで修復することが何より望まれます。

この「島田窯」を文化的価値の高い産業遺産として位置づけ、世界遺産に登録された石見銀山遺跡と共に、未永く未来に受け継いでいくことができればと願っています。

(石見銀山登り窯保存会
会長 渡部 孝幸)

「石見銀山登り窯保存会」では、日本古来の瓦文化存続と貴重な産業遺産の保護のために、皆様からの寄付金を募っています。

★★石見銀山登り窯保存会★★

〒694-0041

大田市長久町長久イ351-3

会長 渡部 孝幸(わたなべたかゆき)

電話・FAX 0854-82-5640

e-mail:yumanitec@dream.bbexcite.jp

※近代化産業遺産

経済産業省は、日本の産業近代化に貢献した産業遺産(幕末から戦前にかけての工場跡や炭鉱跡など)を地域活性化のために有効活用する観点から、産業史・地域史のストーリーを軸とする33の「近代化産業遺産群」に分類し、近代化産業遺産群を構成する575件の個々の産業遺産を認定した。



屋根の修復作業

鳴り砂「琴ヶ浜」・国立公園「三瓶山」でふるさと体験レポート

海と山を舞台に、大田の魅力を満喫〜おおだ市流田舎ツーリズム〜

取り組みの動機

大田市は、世界遺産「石見銀山遺跡」をはじめ、国立公園「三瓶山」、46kmにもおよぶ海岸線など、歴史と豊かな自然に育まれ、魅力ある地域資源を数多く有する地域です。

今回のツアーを主催した石見織人(ORIJIN)「こむしこむさ」は、交流人口と定住者の増加を目的に活動しているグループです。市内12のツーリズム実践団体のネットワーク化と、「おおだ市流田舎ツーリズム」の仕組みを創るため、「大田市市民提案型協働モデル事業」の採択を受け、市とともに取り組んでいます。



船の銀蔵から見える日本海



琴ヶ浜で海遊び

田舎ツーリズムの開催

本年8月2日から3日にかけて、鳴り砂の浜「琴ヶ浜」と国立公園「三瓶山」を舞台に、千葉、大阪、鳥取などから5組12人に参加いただき、「おおだ市流田舎ツーリズムモニターツアー」を開催しました。

1日目の昼は、海水浴やスイカ割りで海を満喫。夜は、地元で採れた夏野菜と三瓶山のバーベキューを食べながら交流会、夜行生物探検や星空観察会を満喫。

2日目は、そば打ちや豆腐作り、キャベツの苗植えを体験。



地元食材を使ったバーベキュー



砂浜でのスイカ割り

このツアーをインターネット得知り、大阪から参加された女性は、「一日で色んなことが体験でき、参加してすぐ良かった。食べ物がいじく、星空がきれいでした。島根は初めてですが、大田が好きになりました」と、笑顔で語ってくれました。

ツーリズムを終えて

今回の企画で苦労したことは、「広報」と「集客」です。特に、集客については、参加募集の期間が約1ヶ月しかなかったこともあり、開催直前まで苦労しましたが、苦労を乗り越えることにより、様々な解決策もみえてきました。

モニターツアーでは、問題点を洗い出すことも事業目的の一つであることから、これらを踏まえ、今後の企画につなげていきたいと思えます。

私たちの最終目的は、ツアーを通して「定住」につなげていくことです。大田の良さや魅力を知っていただき、将来、この地で暮らすことを選択肢の一つに入れてもらえ



三瓶の森で夜行生物探検



子ご美の里でそば打ち体験

石見織人(ORIJIN)「こむしこむさ」

世界遺産「石見銀山遺跡」や国立公園「三瓶山」など、歴史と自然に恵まれた大田市を、より楽しんでいただくために活動する地域ネットワークグループです。

地域の魅力と、人々の知恵と経験を活かせる活動を目指しています。私たちが織りなす活動が、大田の未来をちょっとだけ楽しくするものになることを願っています。

るよう願っています。私たちがもいろんな人との出会いを楽しみながら、「ぼちぼち」「ゆっくり」(フランス語で『コムシコムサ』)と歩んでいきたいと思えます。

(石見織人(ORIJIN))

「こむしこむさ」

会長 中島 浩司)

享保17(1732)年、西日本では春以来の長雨・冷夏やウンカなど害虫の大発生によって、稲作は大きな打撃を受けました。世に伝わる西日本一帯の「享保の大飢饉」の年です。地元に残る史料によれば、「6月より稲に虫湧き、大いなる凶作」「7月より大うんか虫付きて」など、銀山御料においては害虫被害が大きかったと思われま

す。前年の秋、齢60の井戸平左衛門は江戸城内より石見代官に任官しています。年を明けてからの惨状に心労は大きかったことなのでしょうが、さまざまな手だてを講じたと伝えられています。私財や裕福層からの浄財を資金として購入した米や、幕府の許可なく開いた代官所米蔵の米を飢えた人々に与えたこと、稲作被害の大きかった地域では年貢米を免除したこと、飢饉を農民が助け合って乗り越えることの必要性和手段を制札にまとめ村々に立てたこと。



井戸さん祭りの際に家々の軒先につるす「花飾り」を作成
於 町並み交流センター（大森町）

そして特筆は、他国に先駆けて「サツマイモの栽培」を石見に広めたことでしょう。伝えによれば、諸国を巡っていた修行僧を通じて、薩摩国（鹿児島県）で栽培されていたサツマイモの情報を入手しました。肥沃でない石見国の土地柄も考えたことなのでしょうね、少ない肥料と比較的労力要らずで多収穫が見込め、かつ、保存が効くことに着目し種芋の入手を図りました。大飢饉の予兆があった享保17年4月のことです。

しかし、村々へ種芋を配ったのが植付け時期を過ぎた7月だったこともあり、この年の栽培はことごとく失敗したようです。いくつかの試行や幾年月かの時間を経て、村々にサツマイモ栽培が根付いたことを、「井戸平左衛門御代官所、扶食（ふじき：食糧）行き届き餓死人これなき由（徳川実記）」が物語ります。領民は「奇跡が起こった」と感じたことでしょう。

さて、道ばたやお寺の境内地に井戸代官をたたえる石碑をご記憶されている方も多いと思います。それもそのはず、確認されている領徳碑は市内で98箇所（県内：476箇所）、また、鳥取県や広島県でも建てられているようです。

井戸神社（大森町）では、5月と11月の例大祭が今でも営まれています。また、平成15年には地元女性グループが「いも娘（いもむす）」を結成し井戸代官の威徳を後世に伝えるさまざまな活動を続けています（写真）。

井戸平左衛門の歴史をお知らせする機会を通して、「井戸さん」や「いも代官」の愛称が語り継がれることを祈ります。

※参考：ふるさと学習誌 いも代官井戸平左衛門の事蹟（平成13年3月大田市外2町広域行政組合発行）

ちゃんぽし語録⑤

野菜を持って、親戚をたずねた男性(A)と

親戚の女性(B)との会話

- A ねえさん、まめなかな。
B こないだ、ねぎでまくれてな、ぶつけたところがはしって細工にならんじ。
A 気をつけてごしないよ。
B あんさんもまげに焼けて、どがしただかな。
A 畑の世話しとったら、こがに焼けてな。
B 糸瓜がようけできたけ、酢の物にでもして、食べてごしないや。
A そら、ようこそようこそだ。わがとこでもキュウリがええかちゅうほどこきとるけ、もって帰らない。
B そがだかな!? 今年はどこでも野菜がようけできてあばきがつかんじ。
A ほんにそがだ。ま、漬物にでもすーだに。

(対訳)

- A あばさん、元気にしてますか。
B このあいだ家の傍で転んで、ぶつけたところが痛くてたまらないよ。
A 気をつけてくださいよ。
B あなたもよく日焼けして、どつしたんですか。
A 畑の手入れをしていたら、こんなに焼けましたよ。
B 糸瓜（そうめんかぼちゃ）がたくさんできたので、酢の物にでもして、食べてください。
A それはありがとう。うちでもキュウリがともたくさんできていますから、持って帰りなさいよ。
B そうですか!? 今年はどこでも野菜がたくさんできて始末がつかないなあ。
A 本当ですね。まあ、漬物にでもしたらどうですか。

(解説)

今年の夏はワリ科の野菜が大豊作でした。いつもは嬉しい“あすそわけ”も、今年ばかりは困りもの。留守の間に玄関にキュウリがどっさり置いてあることもありました。

今秋は柿も成り年での家も豊作になりそうです。あわせ柿・干し柿以外の食べ方をよく存知でしたらお知らせください……。

みんな！ 待っとなるでな～

五十猛のグロ

◆円錐形の仮屋を作り、屋内に設けられた囲炉裏を囲んで餅などを焼いて食べながら深夜まで歓談して過ごす。

大浦グロ保存会による1年の豊漁や無病息災を祈願する、とんど行事。

期日 1月11日(日)～15日(木)

会場 五十猛町大浦地区



宅野子ども神楽発表会

◆宅野子ども神楽は、基本的に年2回の定期演舞があります。

正月三が日の演舞(各戸訪問)と2月11日の演舞です。

期日 2月11日(水)

会場 仁摩伝統芸能伝承館

[問] 大田市役所仁摩支所

☎ 0854-88-2111



御日待祭り

◆夜通し火をたき、「寝たら起こせ王子や王子、五郎の王子」と叫びながら神社まで町を練り歩くお祭り。

期日 2月14日(土)

会場 巖島神社(温泉津町小浜)

[問] 大田市役所温泉津支所

☎ 0855-65-3111



物部神社節分祭

◆2日23時～厄除け火焚き神事

3日0時から節分祭

正午より福引き・豆まき・福まき

期日 2月2日(月)・3日(火)

会場 物部神社

[問] 物部神社

☎ 0854-82-0644

石見銀山世界遺産センターがフルオープンしました

昨年7月に世界遺産登録された「石見銀山遺跡」の拠点施設となる「石見銀山世界遺産センター」が10月20日フルオープンしました。今回のフルオープンにより、「展示棟」と「収蔵体験棟」の2施設が新たに加わりました。

整備概要(施設規模) ・ガイダンス棟 763.47㎡ ・展示棟 720.69㎡ ・収蔵体験棟 477.53㎡

☆広く世界に影響を及ぼしたとされる石見銀山の歴史、精錬技術などをわかりやすく紹介した展示品をご覧いただくとともに、模型や映像を通じて、世界遺産としての価値を体験できます。

①第1展示室 ～世界史に刻まれた石見銀山

石見銀山から産出された銀が、東アジアから世界各地へとつながり、経済・文化の交流に大きな役割を果たしたことを紹介しています

②第2展示室 ～石見銀山の歴史と鉱山技術

- ◆映像などにより石見銀山の変遷をご覧いただけます
- ◆多くの人たちが暮した鉱山町や鉱石から銀を取り出す精錬作業の様子を解説しています
- ◆銀の重さを感じたり、精錬炉に空気を送り込む「ファイゴ」を実際に動かしたり、子どもたちも楽しみながら学べるよう工夫しています

③第3展示室 ～石見銀山の調査・研究

- ◆最新の調査研究成果をいち早くお伝えします
- ◆石見銀山最大の坑道「大久保間歩」の坑内を再現した模型を設置し、坑内を疑似体験できます

④第4展示室 ～石見銀山遺跡とその文化的景観

- ◆世界遺産としての価値を説明します

⑤ガイダンスコーナー 遺跡立体模型等

⑥情報コーナー 遺跡クイズ等

◆問い合わせ◆大田市教育委員会・石見銀山課

TEL: 0854-82-1600

FAX: 0854-84-9156



入口

観覧料/大人: 300円 小中学生: 150円
開館時間/8:30-17:30 (展示室観覧は9:00-17:00)
休館日/年内は無休

「定め」の松・二世松」と植樹

ふるさととは今

「定め」の松・二世松」の植樹式を、7月4日(金)、三瓶山西の原で行いました。

「定め」の松は、大田市指定の天然記念物です。推定樹齢約400年といわれ、石見銀山御料の初代奉行・大久保石見守長安ゆかりの対立性一里塚松として、また、三瓶のシンボルとして親しまれてきました。しかし、昨年11月、その内の西側の松が松くい虫被害により枯死したため、本年6月、根の部分から撤去しました。幸いにも、この枯死した松は、島根県立緑化センター(松江市宍道町)において、接ぎ木の方法により、



伐採前の「定め」の松」の風景



現在の「定め」の松」の風景

二世松が育てられていました。

植樹式では、竹腰市長をはじめ地元関係者などゆかりの深い6人により、枯死した松とほぼ同じ場所に、この二世松が植樹されました。

三瓶のシンボル、「対の定め」の松」の復活を願い、この二世松を大切に育てるとともに、残っている東側の松の樹勢回復や松くい虫防除などその保護に努めます。

(大田市教育委員会生涯学習課)

表紙 湯里小学校

明治6年5月、湯里と西田に小学校が創設されました。その後、建て替えや移転、昭和46年の統合を経て、現校舎は平成12年に竣工。赤瓦と「ゆさと夢タワー(当時の在校生が命名)」が目をはひく、湯里の新しいシンボルです。

【郷土を愛し、心豊かでたくましく、主体的に行動する子どもの育成】を教育目標に掲げ、23名の児童を8名の職員、そしてたくさんの地域の皆さんが支える豊かな自然や文化を活かした充実した学校です。

ヨズクハデ作りの指導、登下校の見守り、遠足先の草刈…子どもたちのまわりにはいつも地域の皆さんの姿があります。皆さんは口をそろえて、「西田葛やヨズクハデが湯里の宝だと言いますが、本当の宝は子どもたち。宝物を大事にするのは当たり前のことですよ」と言います。

地域の愛情をいっぱいに浴びて、「葛のように伸びる広がる湯里の子(学校要覧より)」は、今日も元気な姿を見せてくれています。



↑明治43年建築の校舎屋根に葺かれた鬼瓦です。現在も「ふるさと湯里郷土館」(J A石見銀山湯里購買店舗2階)に大切に保存されています



この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行 / **大田市役所総務部地域政策課** TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-tiiki@iwamigin.jp http://www.iwamigin.jp/ohda/

おおだの定住サイト「おおだの未来検索サイト どがどが」 http://www.teiju-ohda.jp/